郷土史

第 45 号
R 6. 3. 15

八王子市川口郷土史研究会

上川町森下　　撮影・伊藤　勝之

希望の故郷

代表幹事　岡　村　繁　雄

北村透谷が幻境と呼んだ川口村字森下。その名はバス停にも使われ、近くには東部会館がある。ここに色川大吉氏の撰文による「幻境の碑」が建立されたのは一九七七年五月のことだ。菱形に近い比較的大きな石碑が秋川街道に面して建ち、八王子の自由民権史に光彩を放つ。

一方、街道をはさんで東部会館向かいの天神山にある「三日幻境の碑」はあまり知られていない。こちらは七五年に多摩文化研究会の持田治郎氏らが設置。私にはなぜか、山というよりも丘の中腹に建つこの角柱のほうが透谷と地元の秋山国三郎の交遊には似つかわしい気がする。

若き日の民権運動とのかかわりにも触れた「三日幻境」という紀行文は明治二五年に書き上げられている。そこからさかのぼること七年、彼が〝希望（ホープ）の故郷〟とも記した森下の地で、過激な民権家であった大矢正夫も加わって過ごした日々を水墨画のようなイメージで懐古したものだ。

いま、天神山から幻境の里を見おろす風景は、碑が建てられた半世紀前とは様変わりした。とはいえ、ここには文豪と古老、さらに壮士の生きた証が間違いなく刻まれている。そして、それこそが幻境であることの所以にほかならない。